

に一步を進めしむるものであると論じた。しかし此の説の根據は上述の如く、第一には回鶻文字とシリヤ文字、特にネストル教徒の用ひたシリヤ文字との字體が形の上に於て類似せること。第二にはシリヤ文字を用ひたネストル教徒が、オルホン第三碑に見ゆる如く牟羽可汗の時に回鶻に入り、而して其の教と共に碑の一面に認めらるゝ文字をも傳へたものと見ることにある。されば第一の理由は、若し回鶻人が所謂回鶻文字を使用した徵證の存する時より以前に行はれた文字で、ネストル教徒の用ひたシリヤ文字よりも一層好く回鶻字に似たるものゝある場合には自然に支へ難く、第二の理由は若し碑文に記さるゝ新宗教がネストル派の基督教を指すもので無くして、他の宗教に關するものであることの明になつた場合、及び碑文の文字が回鶻字と稱すべきものでないことが證明せらるゝ場合には、また支持することの出来ないのは無論である。

さて回鶻字とシリヤ字との類似せることは言ふまでもないが、然も更に著しい類似は回鶻人が回鶻字を用ひた時より以前から行はれたソグド文字との間に之を認めることが出来、かの第三碑のソグド文字の如きは、假令それが磨滅して判讀し難い爲とはいへ、最後までラドロフ氏をして、古體の回鶻文字だと主張せしめた程である。尤も今日では好く知らるゝソグド文字なるものが、今世紀の初から屢行はれた諸國の中亞探檢によつて初めて知るを得た新事實であるから、此の事實の知られる以前に第三碑の文字と解し、また同じ時代に回鶻文字とシリヤ文字との類似を以て、兩者の間に於る最も近い關係を示せるものと見たに無理はないが、吾々が紙に書いたソグド文字なるものを知るを得てからは、回鶻字のシリヤ字との類似は左程近いものでは無く、之とソグド字との類似こそ場合によつては見分け難いまで甚だしいものであることを認め得るに至つた次第である。されば第一の理由なるものは全く